

### 3. 2 霞ヶ浦

#### 3. 2. 1 概要

霞ヶ浦は、茨城県南東部に位置する、平均水深 4m の非常に浅い湖である。

かつては抽水植物や沈水植物などが広い範囲にわたって繁茂していたが、護岸工事や水質の悪化、水位操作などにより減少し、特に沈水植物については現在確認されていない。これらの植物は、他の生物の生息場などとしても重要であり、播種などの取り組みが進められているが、同時にこうした植物が継続して生育できる環境を取り戻すことが重要である<sup>63)</sup>。

#### 3. 2. 2 指標種の選定

霞ヶ浦における生物の生態と生息・生育環境の特徴を踏まえ、大まかな環境類型区分を設定するとともに、この区分に対応する指標種の選定を行った。表-3.2.2.1 に、設定した環境類型区分と、候補とした指標種について示した。

表-3.2.2.1 霞ヶ浦において設定した環境類型区分と候補とした指標種

環境類型区分	指標種	環境類型区分との関係
水辺移行帯の植生	ヨシ群落	ヨシ群落は水辺移行帯に生育する代表的な群落である。
	浮葉植物	浮葉植物は水辺移行帯に生育する代表的な植生である。
	沈水植物	沈水植物は水辺移行帯に生育する代表的な植生である。
水辺植生により供給される生息地	オオヨシキリ	オオヨシキリは水辺に近いヨシ群落を主な営巣地とする。
浅場の泥底	ヤマトシジミ	ヤマトシジミは河川下流域などの泥底干潟部に生息する代表的な生物である。
浅場の砂地	シラウオ	シラウオは浅場の砂地に産卵する。
浅場の砂礫地	ワカサギ	ワカサギは浅場の砂礫地に産卵する。

※上記指標種のうち、沈水植物、オオヨシキリ、ヤマトシジミ、シラウオ、ワカサギについては、位置情報を伴った実測データに乏しく、生息状況とモデルによる結果を比較検証できないため対象種から除外した。